

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600398
法人名	都メディカル有限公司
事業所名	グループホーム 福田の家
所在地 (電話番号)	静岡県磐田市東小島260番地 0538 - 55 - 1700
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年7月26日

【情報提供票より】(平成19年 7月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 17 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 5.2 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての 3 棟	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成 19年 6月 18日現在)

利用者人数	22 名	男性	6 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大橋医院・原歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは磐田市西南部郊外にある。田園地帯の中に吹き抜け屋根平屋建ての3ユニットである。ホームの畑には季節の野菜が植えられ、ホーム周辺には種々果樹が育てられている。これらは入居者・職員の共同作業で収穫が何よりの楽しみになっている。家族からは「アットホームで自由な雰囲気」と喜びの声を頂いている。洗濯干しの後の外気欲は3ユニット全員の出会いの場であり、話がはずみ歌が飛び出すこともある。また系列の病院・老健は医療面での安心感がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「その人らしく安心してすごせる家」皆んなで決めた分かりやすいホームの理念は職員が共有して日々の支援に反映させているが、地域の人達にPRするまでに至らない。地域住民の理解を得るための働きかけがより一層望まれるところである。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は一部職員と話し合い館長が全体を評価した。しかし、外部評価を実施する意義は充分理解している。ホームの運営に良い影響をと館長は改善の優先を考えて取り組もうとしている。おおいに期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	第1回開催の地域推進会議では、市の協力を得て地域の民生委員・家族代表が出席で行われた。ホームは地域の自治会との連絡を視野にいれながらも、地域の小学校・消防署との連携を計画中である。今後期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入所時の家族の意見は入所後利用者の状況で常に変化するものである。常時、面会の家族からの意見は聞き出しやすい。しかし、訪問の少ない家族からの意見・要望を聞き出す努力を怠らず、ホームの全体的なサービス向上に活かしていただきたい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームの役割を地域住民に理解を促すための働きかけは努力しているものの、自治会への入会は許されていない。自治会とホーム開設時のいき違いをなくすように、ホーム側からの地道な働きかけを重ねながら地域との信頼関係を築き上げることが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	館長以下職員皆で決めたホームの理念「その人らしく安心してすごせる家」は分かりやすく職員全員で共有して日常生活の支援に活かしていく様になってきている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所に掲げられ、皆んなの目に付くようになっている。	○	皆で創り上げた分かりやすい理念を大切に、職員会議・ユニット会議などで理念の真意について常に話し合い共有し、日々の支援でそれぞれ皆で活かしていただきたい。そこから家族との信頼・地域との信頼に結びつくことを望みたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの玄関はいつも開放され、草花・果樹が植えられ気軽に立ち寄れるよう心がけている。しかし、地域との交流は今のところない。それが館長の今の大きな目標となっている。	○	散歩時の近隣住民への声かけを重ねると共に、自治会長・民生委員などの挨拶をくり返しながら地道な活動をお願いしたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は一部職員との話し合いで館長が評価した。しかし外部評価を実施することの意義は充分理解し、その評価を活かしたいと優先順位を決めて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回の運営推進会議は民生委員・家族を交えて市の進行協力を得て開催した。グループホームの意義・昨年の外部評価結果を報告した記録が残されている。	○	2回目の開催が待たれるところである。自治会メンバーの参加協力を促すのはもちろんであるが、地域の消防署・交番などもメンバー会員として参加いただき、ホームの身近なサービス向上に活かしていただきたい。

静岡県グループホーム福田の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な会議の開催には館長自ら参加し、相談しながらホームの運営に活かし取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者の様子・ホームの今後の予定などを報告している。面会のない家族には文書・電話などで報告している。	○	ホーム便りの有効利用を話し合い、面会できない家族にも入居者の日常生活が見えるようにして家族とのきずなをより深めていくことをお勧めしたい。(家族アンケートからも希望が出ている。)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対応の窓口は各ユニットで、その後館長がまとめて運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう、職員のユニット変えは1名を基本としている。それは馴染みのデメリットを考慮し異動による影響を配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の基本研修は規定されている。外部研修は内容により積極的に参加を促している。加えて今年度から独自の現任研修がとり組まれる予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・町・村・の同業者会議に出席している。又法人内館長との情報交流は常に行いホームのサービスに反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	プライバシーに配慮して心のケアを基本に傾聴・声かけを重視し、利用者・家族が安心できるケアを相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念を基本におき、支え合う関係を築いている。家族と共に過ごすホームでの短期利用の受け入れは可能である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との会話を大変楽しんでおり、コミュニケーションを大切にしている。その中から一人ひとりの、思いや意向を把握しており日常生活に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は担当制をとっている。統一したケアが出来るように月始めの一週間をかけ、ユニット会議を実施している。モニタリングは3ヶ月に一度行っており、ケアプランにのせている。それらを基に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者が、入院し退院した時は、モニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合などは、家族の状況や都合に応じて、病院への移送、付き添いなども対応している。家族の宿泊や利用者の外泊なども柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医とは密接な関係を築いており、2ヶ月に一度受診している。また、本人や家族の希望する馴染みの医療機関でも受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・かかりつけ医を含め話し合っている。重度化した場合は病院やケアセンターに移ってもらっている。いまのところ、本人・家族・かかりつけ医等と繰り返しの十分な話し合いまでには至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は事務室に鍵をかけて保管している。また、ホーム便りの写真は了解を得ている。職員は、一人ひとりの状態に応じた言葉かけを利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや行動を大切にして、寄り添った介護をしている。編み物やちぎり絵に没頭する利用者、特に赤ちゃんの靴下を編んで家族の訪問を待つ利用者の姿が印象的であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材宅配サービスを利用し職員が作っているが、利用者も力に応じて食事作りや片付けに参加している。職員は弁当持参ではあるが、利用者と一緒に食べ食事を楽しむ雰囲気があり、ゆったりと過ごしている。	○	ホームの周りには畑があり、果樹も沢山植えられていて収穫の喜びを利用者と共に味わっていて素晴らしい。今後、職員も同じ食物を一緒にとる工夫や機会を増やす工夫をすると共に、この素晴らしい環境を更に活かしながら利用者と一緒に食を楽しむ生活を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務体制の関係から、入浴時間については一人ひとりの希望に答えられていない。	○	時間を限定してしまわず、本人の生活習慣や意向を大切に、個別の希望にあった入浴支援が少しでも出来ないかをみんなで検討し、試みることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの周囲に畑があり作物を育てている。また桃など沢山の果樹も植えられていて、成長・収穫・味覚を職員と共に楽しんでいる。ホーム前の広場には日常的にほとんどの利用者が出て集まっており、広々とした町の景色を眺めたり自然を感じたり、ふれあいの場としている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、ホームの広場に3ユニットの利用者が、一人ひとりの体調や希望に応じて集まりふれあっている。また近くへの散歩や買い物の支援も希望に応じて支援している。		
希望に応じて					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関に施錠している。利用者の安全確認、見守りは怠らず、ホーム外に出かけようとする時には、無理にとめないで職員も一緒に出かけるなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	取り付けられている火災通報装置についての扱い方などについては、職員間で学んでいるが利用者の避難誘導訓練は実施されていない。また地域との結びつきが薄く、自主防災組織との連携も取れていない。	○	いざという時に慌てずに確実な避難誘導が出来るよう職員間で話し合っってホーム独自の具体的なマニュアルを作成して頂きたい。また、自治会との結びつきの努力をされ運営推進会議を通じ地域の協力体制が得られるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事の摂取量は介護記録に記入され把握している。利用者の体調に応じては、水分補給にも気を配っている。		
2・その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ユニットとも平屋建て、全体的に明るくゆったりとした空間があり清潔感のある気持ちの良いホームである。ホーム前は大変広く3ユニットの利用者が一緒に日々集える場となっていて、四季折々の自然を十分味わう生活がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ馴染みの物がおかれており、利用者の生活に合わせ工夫されていた。毎日日記を書く利用者、編み物を楽しむ利用者など、それぞれの個性や思い、その人らしさが表れている居室であった。		